

1 研究主題 「一人一人が工夫して表現し、進んで学び合う児童の育成」

2 主題設定の理由

本校は、平成28年度、29年度に佐賀県「児童生徒の活用力向上研究事業」の指定を受け、小小連携、小中連携を深めながら、算数科を基軸に据えて、活用力の向上に係る授業力向上に取り組んできた。

平成30年度は、それまでの取り組みを継続しながら、「学び合い活動」を中心に授業改善の研究を進めてきた。それにより、「学び合い活動」に向けた「一人学び」の時間において、自力解決をしながら自分の解決方法を表現することができる児童も増えてきた。しかし、自分の課題解決の方法を持っていない児童や、解決方法を図や式、言葉などで表現できない児童も多く見られた。そのために、学び合い活動が一方的に自分の考えを説明するだけに終わり、学び合い活動に深まりが見られなかった。また、教師の授業力のアンケート調査を見てみると、「一人学び」「学び合い活動」「活用場面の設定」「振り返り場面の設定」全てにおいて、半数近い教師が「できていない」「あまりできない」と答えている。その要因としては、教師が基本となる授業過程について十分に理解できていないこと、学習過程の各場面を充実させるための具体的な手立てを明確にしていなかったことが挙げられる。

これらのことから令和元年度は、学習過程での各場面を本校として捉え方を統一化し、それぞれの授業において確実に進めていくことを目指した。特に「一人学び」を充実させ、児童一人一人が自分の解決方法を持ち、その考えを相手に伝えることを意識して表現していく力を身に付けさせることで、本校の目指す児童の姿に迫りたいと研究を進めた。4年生、5年生、6年生の学習状況調査（12月）の結果を見ると、解決に至るまでの道筋を記述式で答える設問は、県の正答率を上回っているものが多い。しかし、期待正答率による到達状況は低いと言える。特に、グラフなどの資料や与えられた情報から筋道を立てて説明することが苦手と言える。

そこで、令和2年度は、これまでの「一人学び」の充実を継続し、一人一人が自分の課題解決の方法を見出し、どのような道筋で課題解決に向かったのかが分かるように表現していく力を身に付けさせていくことで、本校の目指す児童の姿に迫りたいと考え、本テーマを設定した。

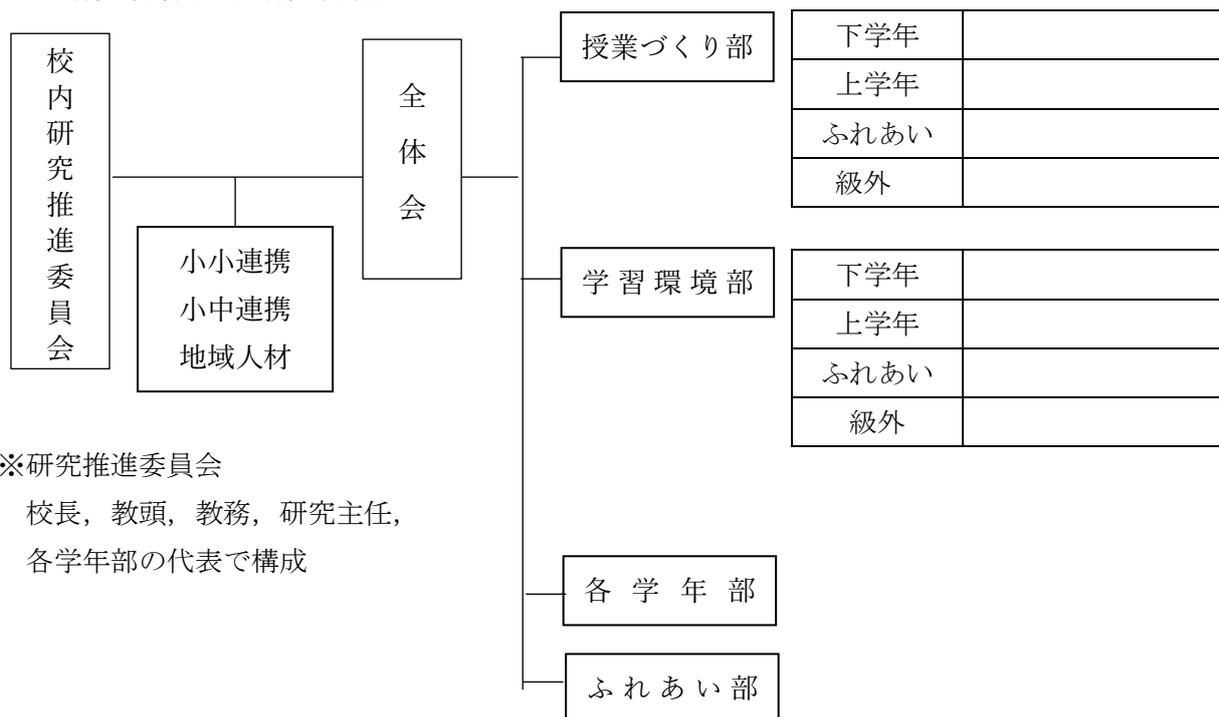
3 研究の目標

算数科における指導方法の工夫・改善を通して、児童に学ぶ楽しさを味わわせながら、より確かな学力を育てるための学習方法の在り方を探る。

4 研究の仮説

「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.1 Vol.2」による授業の中で、1年生～6年生までを見通した「一人学び」の取り組み、特に課題解決までの道筋の表現の仕方を身に付けさせれば、自力で解決し、表現していこうと主体的に学ぶ児童の姿が育ち、生きて働く知識の習得と技能の習熟につながるであろう。

5 研究組織及び研究計画



※研究推進委員会

校長，教頭，教務，研究主任，
各学年部の代表で構成

6 研究計画

月	項目	備考								
随時	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究会（学年，全体，小小連携，小中連携） 理論研究，講師招聘，研究会への参加 									
4月	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の校内研究に関する教師アンケート 児童の算数の学習に関するアンケートの実施 教師の「授業力アップ！セルフチェックシート」の実施 R2全国学力学習状況調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 評価シートとの関連 学習過程の確認 								
5月	<ul style="list-style-type: none"> 児童の理解度の分析及び研究領域・指導方針の決定 <table border="1" style="border-style: dashed; width: 100%;"> <tr> <td>1年生</td> <td>…昨年度の1年生の業者テストを基に</td> </tr> <tr> <td>2・3年生</td> <td>…当該児童の前年度の業者テストを基に</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>…前年度きやまテストの結果を基に</td> </tr> <tr> <td>5・6年生</td> <td>…前年度12月調査の結果を基に</td> </tr> </table> 指導案検討会 	1年生	…昨年度の1年生の業者テストを基に	2・3年生	…当該児童の前年度の業者テストを基に	4年生	…前年度きやまテストの結果を基に	5・6年生	…前年度12月調査の結果を基に	<ul style="list-style-type: none"> 12月調査の分析
1年生	…昨年度の1年生の業者テストを基に									
2・3年生	…当該児童の前年度の業者テストを基に									
4年生	…前年度きやまテストの結果を基に									
5・6年生	…前年度12月調査の結果を基に									
8月	<ul style="list-style-type: none"> R2全国学力状況調査の分析 指導案検討会 									
12月	<ul style="list-style-type: none"> 児童の算数の学習に関するアンケートの実施 教師の「授業力アップ！セルフチェックシート」の実施 県学力学習状況調査（5年・6年）の実施 町学習状況調査（3年）の実施 									

	・校内研究のまとめ	
1月	・校内研究のまとめ	
2月	・全体研究会（結果と考察） ・次年度の校内研究の方向性の検討	

7 研究の方法

- 全員授業，全体研究授業（上学年・下学年・ふれあい部で各1本）による検証
- 児童の算数の学習に関するアンケート調査の実施と分析（4月・12月）
- 教師の「授業力アップ！セルフチェックシート」の実施と分析（4月・12月）
- きやまテスト，全国学力学習状況調査，県学力学習状況調査の実施と分析
- 「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.1 Vol.2」による学習過程の確立
- 講師招聘による研修会，各種研究会への参加

8 研究内容

(1) 指導内容・指導方法の共通理解（授業づくり部）

- ◎「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.1 Vol.2」を活用した学習過程の確立
- ◎「見通しの持たせ方」「表現方法」の全学年共通の手立ての検討
- ノート指導の在り方

(2) 「わかった」「できた」と実感でき，確かな学力を保證する授業（各学年部）

- ◎課題解決の見通しを持って自力解決を進め，分かりやすく表現する力の育成【一人学び】
- 一人一人の考えをもとにした学び合い活動の工夫【学び合い活動】
- 学んだことを学習や実生活の場面に活用する力の育成
- 授業の流れや単元の学びを教室に掲示し，児童が見える形にする。

(3) 学びの環境づくり（学習環境部）

- 学んだことを実生活などに活用できる場の設定と校内掲示
- 基本的な学習習慣の確立（学力向上コーディネーター部と連携）
- 学習習慣に関する掲示物の作成（学力向上コーディネーター部と連携）
- 毎月の生活チェックにおける，学習習慣づくり（生徒指導部と連携）

9 期待する研究の成果（児童に身に付けさせたい力）

- ◎見通しを持ち，自力解決できる力
- ◎自分の考えや根拠を言葉や文字で伝える力
- 互いに解決方法を伝え合い，学びを深める力
- 学んだことを学習や実生活の場面に生かす力
- 学習内容や学びの姿勢を振り返る力

10 全体構想

【基山三校小中一貫教育 教育目標】

きたえ やりぬき まなびあう
～ 夢に向かい 夢を育て 夢に生きるために ～

【若基小学校 教育目標】

元気いっぱい 自分から学び 共に高め合う子供

【研究仮説】

「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.1 Vol.2」による授業の中で、1年生～6年生までを見通した「一人学び」の取り組み、特に課題解決までの道筋の表現の仕方を身に付けさせれば、自力で解決し、表現していこうと主体的に学ぶ児童の姿が育ち、生きて働く知識の習得と技能の習熟につながるであろう。

